

# 螢雪

第78回

— 華陽フロンティア高等学校同窓会新聞 —

平成21年7月2日

発行  
岐阜市西鷯6の69  
華陽フロンティア高等学校同窓会  
電話058(275)-7185

発行責任者  
樽谷 毅

印刷  
サンメッセ株式会社



平成19年度華陽フロンティア高等学校同窓会総会 平成19年8月5日 於 岐阜会館

## 校名変更十周年

同窓会長 樽谷 毅



会員の皆様お元  
気でご活躍の事と  
お慶び申し上げます。  
日頃は、母校および  
同窓会のために、お  
力添え、ご支援を頂  
いては「新型インフルエンザ、海賊、ミサイル、核、  
マネーサプライ、ドロップアウト」、国内において  
は「裁判員制度のスタート、雇用問題、政局と  
注目の総選挙」。母校では、厳しい中にも伝統  
を引継ぎ、二年後には創立八十周年を迎えま  
す。昨年は「岐阜県高等学校定時制通信制  
教育六十周年記念会」が当会の澤田名誉会  
長が統率され大盛会に終了しました。来る  
記念日には同窓生の皆様の御尽力を、切に希  
望し、その心意気に感謝と御礼を申し上げる  
次第であります。今年も母校に感謝して定  
例の同窓会の日がやって来しました。多くの役  
員さん、学校御当局の諸先生を始め、事務局  
の皆さん、恩師の方々、すべての先人のお陰に  
感謝して開催することになりました。総会も  
二年に一度の開催という体制に成り、当番幹  
事(今回は卒業年度、昭和42・43・62・63、平成  
19・20)の方に大勢集って頂き、原稿依頼、校正、

発送迄。そして会議においては、豊富な意見  
を頂きその成功に胸を弾ませた次第であり  
ます。伝統ある「華陽フロンティア高校」をいつ  
迄も守っていく事が同窓会の大きな柱であり  
大きな使命であると存じます。八月二日(日)  
の総会には節目の年度の方と次年の方で当番  
幹事を務めて頂いております。今年も校名変  
更が決定して十周年でもあります。会員の皆  
様もこの記念の年には是非一人でも多くの方々  
にお声を掛けて頂き、参加をお待ちしていま  
す。八月は日本では、御先祖様の供養月でも  
あります。学ばせて頂いた母校の同窓会総会  
に出席して有意義な一日を過し明日への活力  
源にと願っております。最後に今春、人事異  
動があり母校校長でありました水野校長は  
岐阜県総合教育センター長兼教育研修課長  
へ、野村副校長は岐阜県立中津高等学校長へ  
ご栄転されました。親切丁寧な御指導を頂  
きありがとうございました。新しく立派な素  
晴しい窪田校長と長屋副校長をお迎えして、  
母校の次なる課題と、その充実の為に御尽力  
願っております。

それでは皆様の益々のご健勝を祈念しつつ、  
感謝のこあいさつとさせていただきます。  
ありがとうございます。 感謝

# 「父母の心」

校長 窪田 範男



四月から、この伝統ある華陽フロンティア高等学校でのお世話になりました。よろしくお願いいたします。よろしくお願いたします。

本校の卒業生総数は、平成二十一年春の卒業生を含めると、定時制九千三百二十四名、通信制二千七百名の合計一万二千二十四名となっております。

昨年七月、岐阜県高等学校定時制通信制教育六十周年記念式典が羽島市文化センターで盛大に挙行されました。澤田会長による感謝と定通教育への思いを示す式辞の後、古田肇県知事、玉田和浩県議会議長、松川禮子県教育長からご祝辞をいただきました。この大会によって、新しい時代の要請に適応した充実した定通教育を層推進することを再確認しました。

二年後には、本校創立八十周年感謝記念式典が行われます。この四月二十八日には第回同窓会役員会が行われ、澤田名誉会長から、感謝記念事業の組織と予算等の実施計画を具体的に検討するよう話がありました。その後、樽谷会長のものと役員会・当番幹事会が行われています。そのたびに、本校のあゆみをお聞きすることができ、本校の伝統と歴史を再認識させられています。

話は変わりますが、先日、お寺の和

尚さんから次のような話を聞く機会がありました。

人間とは自分勝手なものです。例えば、子どもは、自分の都合のいいときに、「お父さん、お母さん」と近づいてきて、用事を頼んだりお小遣いをもらったりします。しかし、いったん自分にとって都合が悪くなると、近づくどころか背を向けて離れていきます。そんな背を向けて離れていくの事を案じるのが父母なのです。そのような父母の心が分かるのは、やはり自分が子をもって苦労するときです。子どもは、「自分の親の心くらいは分かっている」と思っています。が、本当は何も分かっているのではありません。

教師は、生徒に教えられ一人前の教師になり、生徒は、教師に教えられ一人前の人間に成長するものです。これからも同窓会のお力をお借りして、思いやりの心をもった生徒を育てていきたいと思っています。今後とも、ご支援をよろしくお願致します。

## 創立八十周年感謝記念大会 (平成二十三年秋) 現会長を中心に 致団結して盛會に！

同窓会名誉会長 澤田 榮作



いよいよ二年後の秋には創立八十周年を迎えようとしています。

世界も日本も今まさに大変な時であり、大きく変化する時期が迫っているのです。かつて成長期の時代に「物で榮えて心で滅ぶ時が来る」

と言われていましたが、その時が来たのではないかと思えます。ピンチは改革のチャンスです。「二十一世紀は心の時代」と言われましたが、いよいよ世界も日本も含めた全ての人々が反省をして心を豊かにし、一人ひとりが変化をするときではないでしょうか。

我が母校は日本でも長い歴史のある学校として昭和六年に夜間中学として開校以来、第三中学校、岐阜県立第三高等学校、そして華陽フロンティア高校へと所に移転して華陽フロンティア高校へと変化を遂げまいりました。そして私が同窓会会長時に当時の小山校長先生、育友会と三者一体となり、色々なことがありましたが皆様の強い団結の下で、七十周年記念大会を盛會に行わせていただくことが出来ました。今でも非常に感謝しているところであり、七十周年記念大会があったのはついこの間の出来事のような気が致します。

気がつけば間もなく創立八十周年。今回は定時制通信制の同窓会が皆様のご協力で一本化になり始めており、樽谷現会長を中心に八十周年感謝記念大会が行われます。皆様と共に一致団結して大会の盛會なる実施を念じているところです。すでに今年になって正式に実行委員会も発足しています。母校の方も新任の窪田校長先生、長屋副校長先生を迎えて新しいスタートを切っています。窪田校長先生、長屋副校長先生という立派な先生をお迎えして、これで八十周年も無事に実施出来ると、私も陰ながら喜んでるところであります。紙上を借りて御礼申し上げます。この三月まで母校の校長先生であつ

た水野校長先生、野村副校長先生が中心になって、県の定通教育の中心である振興会の六十周年感謝大会を昨年の秋に盛大に開催していただき、立派な記念誌を作っていただいたことです。本堂に有難う御座いました。母校の名誉会長として、また県の振興会会長として、関係者全ての皆様により御礼申し上げます。

校長先生をはじめとして多くの先生と先輩方のおかげさまで母校が間もなく八十周年を迎えます。私も微力ではありますが現会長のバックアップをさせていただきます。新しい歴史を作りあげていくお手伝いを総力挙げてさせていただきます。同窓会には母校の伝統を守る大きな使命があります。その使命を全うすることが後輩の皆さんのお幸せにつながることを思います。

最後になりましたが、母校のますますの発展と、全ての皆様のますますの御健康と御多幸を心より祈念致しまして感謝の御挨拶とさせていただきます。

感謝

岐阜県立華陽フロンティア高等学校  
創立八十周年感謝記念  
事業計画について

創立八十周年感謝記念事業実行委員会副委員長  
川島 英司 (定昭十九年度卒業)

平成十三年十月に、創立七十周年感謝記念事業が盛大に開催されてから、

早くも八年の歳月が流れました。母校が現在の地に移転し独立校舎を構え、華陽フロンティア高等学校と改称してから今年で十年目、そして二年後には創立八十周年を迎えます。

五月七日に開催された同窓会役員会で、定通教育振興会、PTA、校友会並びに母校のご協力を得ながら、創立八十周年感謝記念事業実行委員会を立ち上げ祝賀記念事業を推進します。実行委員会には、総務、募金、記念事業・記念式典、記念誌・記録及び名簿の五委員会を設置し、各委員会で担当する記念事業について具体的な内容を計画し、その実施に必要な事項を検討することになりました。

厳しい社会経済情勢のなかですが、次の十年間の同窓会活動資金や定時制・通信制で勉学にいそしみながら、全日制高校の部活動に互して活動する後輩達が充実した活動ができるような環境を整備する一助ともなればとの思いから、母校のご要望を踏まえながら、募金活動をしたいと考えております。その節には格段のご賛同とご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 華友会(仮称)発足総会について

発足人代表 杉浦 博章

通信制卒業生の同窓会組織である「華友会」は、平成十六年度の総会を最後に活動を休止していましたが、有志方々の熱望もあり、新たに任意の団体として再発足させようと努力してきました。このたび再発足に向けた第一歩として

総会と懇親会を開催することになりました。私も昨年三月、中央大学の通信制課程を卒業したこともあり、これを機にお手伝いさせてもらうことになりました。

総会については、今後の運営のあり方など話し合いをなさねばならないこともあるのですが、かたはばかりの堅苦しい議事はなるべく手短にすませ、気軽に欲談できるような席にいたしたいと思えます。また総会、懇親会とも二時間ずつとつてありますが総会の多くの時間を茶話会とし懇親会など、お酒の席が苦手な方にも気軽に参加していただけるようにしたいと思えます。総会の会場費は、ゼロからの出発ということもあり、任意の寄付金(お気持ち程度でよろしいです)でまかない、お菓子や飲み物などお互い持ち寄るかたちで和気あいあいとしたものしたいと思います(会場は軽い飲食程度はよいとのことです)。また総会のみ、懇親会への参加も歓迎です。以前の華友会を知っている方も新たに卒業された方も奮ってご参加ください。私も通信制大学を卒業したこともあり、進学など考えている方にも微力ながら経験談などお話できると思っています。

日時、会場は次のとおりです。  
平成二十一年十一月二十二日(日)  
正午～午後二時(総会)

会場 JR岐阜駅北口前じゅうろくプラザ5F小会議室1にて(お菓子など自由に持ち寄ってください)

時間 午後二時～午後四時(懇親会)

総会会場1F レストラン ラ・ローゼ・プロヴァンスにて

会費(懇親会参加者のみ)  
男性五、八〇〇円・女性五、〇〇〇円  
・未成年者四、五〇〇円  
人数把握のため事前連絡お願いいたします。  
Email: kayu@infoseek.jp または 090-4406-7217 杉浦まで。  
ホームページが用意してあります。  
http://kayukai.hp.infoseek.co.jp/  
携帯からは  
http://kayukai.hp.infoseek.co.jp/mobile.html またインターネット上の掲示板(携帯からもアクセスできます)  
http://kayukai.bs.fc2.com/ もご利用ください。

## 岐阜東部華陽会

加藤 正幸

岐阜市徹明町以東に居を構える同窓有志で開いている東部華陽会は今年もさる三月二十日午後五時から割烹、さわだで十七名の参加を得て開催しました。母校から水野校長、同窓会樽谷会長、それに同郷の出である関西華陽会の澤田慶会長を迎え、九十才なんなんの熊田熊三郎大先輩ら、そうそうたる顔ぶれでありました。

ごあいさつから、演劇・野球あるいは文芸においてすばらしい歩みを残している母校の確たる現況を記した校誌「フロンティア」を手に入らせてもらいたのもしく感じいったことでした。

自己紹介では当時の回想や病いに打ち勝って出席できたよるこびなどが披

露され、記念写真に全員おさまって宴となるが、夜中魂に燃えたご仁ばかりに感慨もひとしおの様子。なごやかな談笑を惜しみながら最後にわが校歌を合唱して、未来の再会を誓い合うのでした。

それにしても出席者が三十年代卒業までであるのが気がかり。この一文をみて、以降の皆さんが自慢話をひっさげ、学年仲間を誘い合って顔を出していただければ大変ありがたいことです。地域は岐阜市東部、各務原市、羽島在籍の方で、お気軽に058-243-1690番 世話係加藤までご一報下さい。



岐阜東部華陽会



東京同窓会



# 東京同窓会

村井 恒雄

平成20年度の華陽高校東京同窓会は、20年10月25日土曜日午後1時から恒例のグラウンドアーケ半蔵門で開かれました。

当日は母校より水野秀則校長、川島英司同窓会副会長の2名のご出席を頂き、全員で13名の参加となりました。

山口名誉会長は米寿をお迎えになりましたが今回は体調の具合で、小林名誉会員と山田前会長も残念ながら欠席されました。このようにベテラン会員が欠席したことは残念でした。

一方幹事が若返ったこともあり女性会員は尾藤美子さん、中谷シゲ子さん、石田なみ子の44年卒3名が出席して頂き、久しぶりに華やかな同窓会で盛り上がりました。

会は安岡襄会長の挨拶で始まり、次に水野校長から母校のスポーツを初め各方面での活躍と、フロンティア高校としての模範的活動が報告されました。後輩達が各方面で活躍している状況を聞き皆で喜び合いました。

会は先日お亡くなりになった鶴飼先生を偲び献杯で歓談に入りました。

会場で中谷さんが日頃の修練の賜物である素晴らしい日本舞踊を披露されました。最後に校歌斉唱と19年卒、野村東一会員の関東一本締めで閉会となりました。

# ”長良川で関西華陽会開催” 関西華陽会

横山 道雄

第13回関西華陽会は本年八月一日の夕べ長良川の鶴飼船に乗り、夜空を色彩る火花を観ながらの開催となりました。

昨年の華陽会の折、樽谷同窓会会長のさんの薦めもあり、夜間通学時はそれ程、全国花火大会に関心がありませんでしたが、故郷を離れてみて如何に長良川の花火が素晴らしく感動的なものであるかを痛感しています。

関西においてもPL花火大会や、淀川花火大会が有名ですが、長良川に比べれば足元にも及ばないと、いつも自慢をしています。恐らく関西在住の同窓の皆様も同じ感慨をお持ちだろうと推察します。久方振りの夏の情緒に、感動し大いに盛り上りをみせるだろうと期待をしています。

翌日は岐阜会館で開催される同窓会総会に出席して、母校からの新たな鋭気を頂いて元気で帰阪したいと夢を膨らませていきます。

一日の宿泊は岐阜グラウンドホテルです。岐阜近辺の同窓会諸兄にも、ご参加を頂ければより楽しい思い出に残る一日となるだろうと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

おめでとついでございます！

前華陽フロンティア高等学校  
同窓会副会長

小林 幸男氏

旭日小綬賞受賞されました。



小林幸男氏

昨年の叙勲において、国から旭日小綬賞を拝受されました。心よりお祝い申し上げます。同氏は、昭和二十四年に、華陽フロンティア高等学校の前身である、岐阜第三中学（五回）を卒業され、「他人尊重」「不言実行」をモットーとされ、温厚、

誠実な人柄で、岐阜市議会議員を連続六期、二十四年にわたって市政の発展に尽されました。この間、岐阜市議会議長を始め数々の要職を歴任されました。

この間華陽フロンティア高等学校の同窓会副会長として、豊かな経歴と見識に基づくさまざまな提言をいただいた事は、まだ記憶に新しい所です。

これまでのご活躍に敬意を表わすと共に、今後も同窓会活動に、ご助言を賜りますようお願いすると共に、この紙面を借り、同窓会の皆様にも、小林幸男氏の叙勲をご紹介申し上げます。

文責 三輪

# 個人優勝 団体3位

平成二十年度卒業生 澤頭 恵

わたしが剣道を始めたのは7歳のときでした。小学校の間は少年団で練習をし、中学校でも、もちろん剣道部に入りました。練習を積み重ね、級や段を取るために段級審査を受け、たくさんの大会に出場しました。中学卒業後に入学した高校でも剣道部。しかし、女子部員も少なく、友達と遊びたいばかりのわたしはだんだんと部活に行かなくなり、結局は退部、そして2年生のとき高校を退学しました。10年間続けてきた剣道を、それ以来やることもなく忘れていきました。昨年、華陽フロンティア高校に編入したときも、剣道部への入部は考えてもいませんでした。3年生になってから顧問の先生に入部を勧められ、県の大会に出ようと

言われたときは、正直なところあまり乗り気ではありませんでした。最後に剣道をしてから9年の時が過ぎ、技術・体力に自信がなくなっていたからです。プランクがあるから試合に出たところで負けるだろうと思っても、プランクがあっても負けたくはない気持ちがあります。試合をするのが怖かったです。しかし久しぶりの試合は、9年前まで感じていたあの試合の中でのいい緊張感と、勝ちたいという気持ちを思い出させてくれたのです。大会結果も団体・個人ともに優勝という結果を出すこ

ができ、全国大会への出場が決まりました。そして迎えた全国大会。県大会とはスケールが大きく違い、日本武道館という場所に全国から集まったたくさんの選手がいました。まずは、負ければ終わってしまう個人戦。悔いだけは残さないよう1戦1戦全力でぶつかりました。勝敗が決まらず延長が2回続くとともにあり、それでも何とか勝ち進んで決勝戦に進むことができました。個人決勝戦の前に団体戦が始まり、休む間もなくまた試合。連続の試合にかなりバテていました。しかし、そんなわたしを引っ張るように頑張ってくれたメンバーのおかげで、団体戦では見事3位になることができました。

いよいよ個人決勝戦。武道館の中央に作られた1つの試合場に会場のみならず注目。何ともいえない静けさに緊張しながらも試合開始。最初に相手に1本をとられ、このまま負けてしまうかもという気持ちが一瞬頭をよぎりました。そのとき浮かんできたのが、支えてくれた先生方・剣道部の仲間・両親。今も一生懸命応援してくれているのをひしひしと感じ、勝ちたい一心で1本取り返すことができました。結果、4回延長の末勝負の1本を決め、優勝することができました。

大会を終えて思うこと、それは、先生方・剣道部の仲間・両親・友人の支えのおかげで今のわたしがいる、みんなで勝ち取った勝利だということです。大会は終わりましたが、卒業後も社会人として剣道が続けていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



## 学友、先生方に 支えられて卒業

廣瀬、宮木さんら二人  
未来への夢に向って進学

平成二十一年三月、通信制を卒業された、廣瀬貴さんは、幼い頃からの神経芽細胞という難病にもめげず、見事三年で必要な単位を得て卒業され、今は好きな音楽の道に進もうと、音楽専門学校へ進学し、未来の夢に向って、勉強されています。又今年八月一日(日)に開催される、同窓会総会の、当番幹事の一人として、準備に頑張っておられます。

宮木真佐子さん、恵美さん親子も同時に通信制を卒業され、母親の真佐子さんが、老人ホームで働いていることもあってか、恵美さんは、看護師養成の専門学校へ進学され、未来の夢に向って、新たにスタートされました。



# 華陽フロンティア高校演劇部、中部大会に出場

## 「宮川駅物語」 重いテーマに挑戦

### 生徒が創作・演出

2008年、12月22日～26日。石川県の野々市文化会館フォルテにて、第61回中部日本高等学校演劇大会が開かれました。

華陽フロンティア高校演劇部は第56回岐阜県高等学校演劇大会県大会において県知事賞を戴き、この中部大会に出場しました。中部大会は、愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井の中部6県、全280以上の学校から、代表となった17校が集まった全国でも最大規模の大会です。岐阜県からは華陽フロンティア高校、中

津商業高校、大垣北高校の3校が代表として出場しました。

華陽フロンティア高校の演目は3年A組の菱田愛子さんが創作・演出を務めた「宮川駅物語」です。ある夏の日、小さな駅に集められた町の人々。今日は何があるのか？ 14年前の日誌を紐解き、過去に遡って物語が展開していきます。14年前の宮川駅で、置き去りにされた赤ん坊を巡って町の人々が奔走します。女子高生の妊娠など重いテーマを扱いますが、人と人とのつながりの大切

さを描いた心温まるお芝居でした。幕間の討論会では舞台装置とセットの公衆電話に注目が集まりました。舞台装置は木製のパネルを建て、レトロな駅舎を表現しています。本物そっくりの公衆電話も木製の手作りです。

今年も7月に瑞穂市で第57回岐阜県高等学校演劇大会地区大会が開催されます。華陽フロンティア高校の演劇部も参加します。是非、皆さんお誘い合わせの上、観劇にいらしてください。



待合室に置き去りにされた赤ちゃんに困惑する高校生と駅員



再会した旧友と町の人々



母親と娘に再会した町の人たち

## 感謝



夜間定時制課程  
旧職員 各務 斉

先ずは、昭和三十九年度及び四十二年度入学の皆さん、お元気ですか？特に昭和三十九年度入学の皆さん、未熟な新米教師の私を鍛え、育ててくださったありがとうございます。当時のことを振り返ると恥ずかしいかぎりですが、そんな私も、はや六十八歳になって、皆さんと次第に年齢差が無くなり、今や「毎日サンデー」の生活をしています。そこで、生活のコアとなるもの一つとして「坐禅」を生活の一部にし、正眼短大（美濃加茂市）で坐禅の講座を受講し、瑞龍寺、珠泉院（共に岐阜市）の坐禅会に参加しています。この三か所で共通することは、若い人から高齢者までが一堂に会して受講・参加していることです。この姿は以前の華陽高校の姿そのものであり、身が引き締り、気力が沸沸と湧き出でて来ます。真冬の朝、六時からの坐禅会にも元気に参加できるのは、初任校が華陽高校であったこと、生徒の皆さんから「凄いエネルギー」を貰ったからであると感謝しています。最後に、華陽フロンティア高校の更なる発展と皆様のご多幸をお祈りします。

# 華陽は遠くにありて

## 思うもの

昭和四十四年度 定時制課程

問 所 公 子

九年前、華陽高校が鶉の県立第一女子高校の跡地へ華陽フロンティア高校として移転することが決ったとき、定年を待たず退職を決意しました。昭和四十三年新任で赴任して十一年間お世話になり、翌年から担任を受持ちその間ずっと同窓会の仕事に携わり四十年の記念式典も当時の熊田教頭先生と共にお手伝いさせて頂きました。

毎年発行する同窓会新聞にも同窓会総会の準備にも苦労したように思います。昭和四十四年入学の学年の担任を受持ち四年間卒業まで見届けました。当時ほとんど学業と仕事の両立を余儀なくされ、卒業を待たず去って行った人もいましたが、現に社会に貢献している皆さんに喝采を送ります。

教員としての最後は華陽高校で終りたいと希望し、再び赴任したのですが、働きながら学ぶ定時制では無く、時代のすう勢には勝てず、華陽高校の最後を区切りとして、大縄場での華陽高校を見届けることを決意し退職しました。(ふる里は遠くに在りし思うもの...)で、今は飛驒に住み、月に二度は岐阜へも行き、好きな旅行、ヨーガ、お茶短歌等々三昧の毎日で、人生を謳歌しています。



# 華陽フロンティア高校の三年間



通信制課程  
旧職員  
野村 一高

私は華陽F高校には教頭・副校長として三年間お世話になりました。最初の二年間は通信制で、わずか二十名の先生方と苦楽を共にしました。先生方は本当に優秀な方ばかりで、教頭としていつも助けられ、支えて戴きました。丁度、通信制の生徒が大きく様変わりする時で、生徒指導上の問題が次々と改善されていきました。先生方の仕事に対する意欲が高く、素晴らしい面接指導や添削指導、学校行事が展開されていきました。先生方の取組は、三年間で卒業率が初めて五十八%を超えたことから理解できると思います。

次の副校長としての一年間は学校全体を見る全く別の立場でした。華陽F高校を、今まで一方からだけ見ていたものが、定通の両課程を見ることよって考え方が大きく変わり、副校長として責任の重さを痛感しました。

また平成二十年七月三十日に、羽島市文化センターで行われた岐阜県高等学校定通教育六十周年記念式典では、澤田栄作本校同窓会名誉会長を始め、実社会で活躍されている方々から多くのことを学びました。現在、日本の産

業界の第一線を支えている人たちの中には、定通の卒業生が大勢います。その人たちは、いつも暖かい眼差しで定通の生徒を見守っているのです。記念式典で古田岐阜県知事が大学卒業後、通信制で学んでいたことを話された時は、とても嬉しく思いました。

定通の生徒は様々な困難を抱えながらも、やはり高校で勉強したいという思いを持って入学しました。その前向きな精神を、卒業生も先生方も心から応援しています。そして華陽F高校を卒業して、新たな人生を出発させた卒業生の皆さん、様々な思い出のあるこの華陽F高校を心の故郷にして、ぜひこれからの人生を切り開いていってください。私たち教員はいつまでも卒業生を見守っています。

# 文化祭

定時制課程旧職員

菊池 徳 隆

勤務していたときは毎日が新しい経験で、日々を過ごすので精一杯だったと思います。そんな中で私が四年間通して行った仕事は文化祭でした。一年目は、初めての担当者打合せ会議で、ほとんどが転動したばかりの教員、このやり方は「何もわからない」という状態でした。「どうする?」という不安な思いばかりで過去のことをわかんないまま、我々がたどり着いた方針は「自分たちで思ったことをやってみよう。ここはフロンティア(新天地)だから!」でした。

そして、手探りの中で担当者会議を開き、生徒実行委員会には「新しい文化祭を作ろう。」という課題の元に企画立案をしてもらいました。生徒はI部からII部がいるメンバーで、限られた時間の実行委員会を何度も繰り返して、激論を交わして本当に真剣にアイデアを出してくれたと思います。我々が手探りだった分、生徒は本当によく活躍してくれました。この積極的な活動は毎年引き継がれ、年々文化祭の質を高めてくれました。この貴重な経験は、卒業後にきつと役立っていることと信じています。

最後に、フロンティアの卒業生はすべての方が何か新しい経験を積んで今があると思います。この華フ口精神を忘れず、今後も社会で活躍してください。



# ともに学んだ

定・通信制課程旧職員  
今村敏美

私は、平成十六年四月に完成したばかりの真新しい体育館アリーナでステージ上いっぱい先生方と共に、新鮮で活気あふれた雰囲気のおかげで紹介されました。定時制課程に赴任し一年Ⅱ部の担任として一年間、十七年度から二十年度の四年間は通信制課程で、教科「家庭科」を共に学びました。

高校の学校統合に関わり、何かと忙しくまた悩み多い生活を送っていた私にとつて、本校でのこの五年間は新たに、家庭科教育とは何かを自問すると共に、素直に「さわやかな息」の出来た時間でもあり、また自分の生活を見直すことの出来た時間でもありました。授業、科目「家庭総合」で最初に学習する「家族」は、本来家庭科教育において中心ともなる重要な領域「家庭経営」の分野です。家庭形態が多様化する現代において、家族とはこうあるべきであるという「理想の家族」は、もはや存在しないのです。ここでは、生徒自身の価値観のもとに、「最後に残された家族の機能とは何か？」などといった内容を共に考えてきました。つまり「自ら生きる力」を考える良い機会であったと思います。一つの教室で具体的な身近な問題をとおし、男女が共に主体的に考え、年齢が異なる友と、進学・就職・結婚など各ライフステージにおいて、どう生きていったらよいかを共に考えてきました。皆さんひと

りが、自分にふさわしい生活観を確立しようとするエネルギーを感じる事が出来ました。フロンティアにお世話になった五年間。十六歳から七十歳までの幅広い年齢層のかたがたと共に学ぶことが出来ましたことは、私の三十八年の教員生活にいや人生に薄紅色のページを加えることができました。通信の「自学自習の精神」は、人として生きていく基礎であると思います。最後に、活気あふれるこのすばらしい華陽フロンティア高校の更なる発展と、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 生涯をかけて学ぶこと

通信制課程旧職員

後藤稔治



華陽高校通信制へは、昭和五十八年度に赴任して、平成二年度までの八年間お世話になりました。

当時は半数近くが自分より年配の生徒さんで、戸惑ったことを覚えています。その頃の名簿や機関誌「華陽通信」を読み返すと、当時の懐かしい思い出、胸がいっぱいになります。押入れを整理していたら、全通研放送教育研究第六号（昭和六十二年八月）が出てきました。全通研というのは、全国高等学校通信制教育研究会の略で、この年は、NHK高校講座の効果的な活用方法について、松阪市で発表し

たのでした。

松阪市といえば「松坂の一夜」が有名です。一七六三年、松坂の旅籠で本居宣長は、師の賀茂真淵と生涯に一度だけ対面します。その後は書簡で国学の指導を受けました。通信制という学習形態に疑問を持っていた私は、この歴史的な事実から、大いに励まされたものです。

今から思うと、生涯教育の観点から通信に学びにみえていた方々も多々ありました。それらの方々から、多くのことを学びました。現在、私は岐阜県博物館に勤務しています。今は、博物館の行事にボランティアとして参加していただいているサポーターの方々から元気をもらっています。

私が強調したかったのは、具体的な知識を多く身につけることではなくて、学ぶ喜びを通して、生涯学び続ける姿勢を持ち続けてほしいということだったと思います。通信の校訓「継続は力なり」を今、自分自身で噛みしめています。

## 共に過ごした大切な時間

通信制課程旧職員

柏木典子



皆さん、お元気で過ごしてください。華陽高校通信制課程で皆さんと過ごした七年間はとてもよい思い出になっていると感じて

います。まだ若かった私は、担任をさせていたがながら皆さんに多くのことを学ばせていただきました。

最初に担任したクラスは、十代の人から六十代後半の人まで年齢層が幅広くそれだけ思い出が多くなりました。また、四年間持ち上がり、卒業まで迎える事ができたことの感動は今でもしっかりと覚えています。六十代の男性は卒業の時七十代になっておられました。が、とてもお元気で卒業されました。

今、その当時の事を振り返ってみると、学びたい意欲が全身から溢れている人の集まりでした。熱心にノートにまとめ、教師を見つめるように授業に聞き入る姿など、あるべき姿を見せていただきました。本当に教師として真剣に頑張りましたし、皆さんも多くのことに本気で取り組んでくださいました。心ある者同温かい繋がりがありました。心地良い時間を過ごしていたと思います。本当にありがたいと思います。

現在、忙しい忙しいと仕事に追われるように過ごしがちな私にとつて、華陽高校通信制で過ごした七年間は、かけがえのない時間であり、初心を思い出させてくれる経験です。

若かった私にすばらしい経験をくださった皆さん、どうぞいつまでもお元気で過ごしてください。また、さらなる活躍をお祈りしています。





# 人を動かすすばらしい力

定時制課程旧職員

安藤 健 一

華陽フロンティア高校での思い出はたくさんあります。授業やクラス運営については当然いろいろなことがありましたが、部活動もその中の一つです。四年間の勤務のうち二回全国大会に出場できたことはとても誇りであり部員の力でもありました。高校野球といえど甲子園でしょうが、我々定時制通信制軟式野球では明治神宮球場が桧舞台です。その明治神宮球場で華陽フロンティア高校伝統の縦じまのユニフォームが大暴れし活躍しました。部員数は決して多いとはいえませんが、野球が好きで好きでたまらない部員たちばかりでした。野球経験者ばかりではありません。フロンティア高校に入学して初めて野球をする部員もいました。キヤッチボールもしたことがない、小学生の時遊びでやったことがあるという部員が半分ほどです。監督を任された自分は正直、野球になるのか、本当に勝てるのか不安でした。でも戦わなくてはならない。戦う以上は勝たねばならないと迷いはありませんが、野球経験歴なんて関係なく全力で野球のすべてを指導しました。厳しすぎて辞めるかもしれないと覚悟はしていましたが誰一人辞めることはなかった。体力が限界でみんなについていけなくなってもマネージャーとしてがんばった部員もいる。厳しくすればするほどどんどん活気が出てどんどん練習に励む部員達

ばかりであった。部員達は俺に叱られる事を望んでいるのか？もともとと厳しくしてほしいのか？と不安だらけだった自分が恥ずかしくなるほどの頑張りだった。自分を信じて一生懸命努力すれば必ず試合で結果が出る。最後の最後で誰からも信頼できる選手になる。と言うことを何度も何度も部員達に話しました。部活動の活動時間は夜がほとんどでⅢ部の部員は授業とかさなりなかなか練習に出られない。Ⅱ部三修生は夜の授業がある曜日はほとんど練習無しでした。でも、少ない時間を自分で見つけて自主トレに励む部員が多く技術的にも精神的にも、人間的にも成長していった。いつの間にか、私は何が何でも神宮球場で勝たなくては、この部員達に申し訳ないという気持ちになっていました。気づけば部員達に私が動かされていたのです。人に悩み自分に厳しくして大きな壁にぶつかって本校に入学した生徒が、教員を動かす力を持っていた。恥ずかしながら私が成長させられました。三年目の夏神宮球場でみんなで一勝を勝ち取りました。

## 華陽高校での思い出

昭和四十三年度卒 定時制夜間

中村 直樹

新幹線の開通・東京オリンピック前の年に終え、岐阜国体の年に、私は高校生活に入りました。高校の四年間は、いろいろなことを体験しました。クラブ活動でいえば、

一年・二年は陸上部、三年・四年はバレーボール、三年の前半に華道部をちよつと経験しました。その体験をとおして、女房と知り合いましたし、無二といつてもいい親友と出会いました。その友とは、もう一人の大切な友と共に年三回、互いの誕生日に一杯を飲んで、はや四十年が経っています。飲んでいる時の話題は、若い時は政治・経済と記憶しているが、最近はおつぱら自身の健康の話題ばかりです。もう少し歳を重ねたときは、きっと孫の話題が出て来ると確信をしています。乾杯・・・。

## 華陽高校を卒業して二十年

昭和六十二年度卒 通信制課程

滝 俊博

当時の学生、教職員の方々に助力を受け卒業でき本当にありがとうございました。産業能率短期大学へ進学し卒業できたのは、華陽での薫陶の賜物です。華陽ファミリー新、旧もあらゆる機会に方法を使って学ばねばならない。学ぶことは楽しいのです。知の発見は人生の喜びである。日々勉強し自分らしい新しい発見の喜びを積み重ね、着実に人生勝利へ自身を導くのです。勉強しなければ自分が損をするし、今は楽に見えても社会に出てから後悔、行き詰まることになる。無論、知識・学歴必ずしも幸福の条件ではない。知識を生かす正視眼の智慧こそ暗愚な自身の壁を破り活路を開き境涯を高め変革できる。

## 二十年という月日

平成元年度卒 通信制課程

小寺 磨美  
(旧姓 今尾)

華陽高校を卒業して二十年。あつという間の様で、振り返って見ると、実に色々な出来事がありました。結婚をして、二度の出産を経験し、現在は子育ての真只中にいます。この間には、義父との別れや、華陽高校で共に学んだ友との悲しい別れもありました。

悩み多き十代、華陽高校に通っていた頃にはとても想像する事が出来なかつた私が、幾つもの出逢いと別れを経験して、今、在る様に感じます。華陽高校で学んだ「継続は力なり」は、今、子育てをする中で、とても大切な事だと日々思います。私自身もこれからの人生の中でずいといきたくたい事ですし、子供達にも是非、身に付けていって欲しい力です。

こうして振り返ると、華陽高校との出逢いは、私にとってかけがえのないものだったと、改めて感じる事が出来ます。今はお世話になった先生方や同窓生の皆さんには、感謝の気持ちで一杯です。



## 感謝

平成十九年度卒 定時制課程

山口 みゆき

華陽フロンティア高校を卒業して一年以上が経ちました。卒業後は製菓業に就き、毎日忙しければ充実した日々を送っています。

高校生活を振り返りやっぱり思い出すのは、周りの先生方や友達の温かさです。

私は高校二年生の時、父の入院がきっかけで学校へ行かなくなりました。進行性の癌。余命半年と診断された父の姿を見て少しでも一緒に過ごしたいそう思った私は学校を休学しました。

休学し、看病に専念できるようになった私は時間がある限り父と過ごしました。昨日まで歩いていたのに今日から車イス。薬の幻覚症状。辛く痛い治療も効果なく入院して二ヵ月、父は亡くなりました。

父が亡くなり、学校へ遊びに行ったところある先生が復学のチャンスを与えてくれました。色々迷いもありましたが私は再び通学することを決意しました。

久々の教室。友達や先生方は、おかえりと温かく迎えてくれました。

私は、華陽フロンティア高校を卒業することが出来て本当に幸です。最後に、先生方や友達へ。ありがとうございます。

## 「経験」

平成十九年度卒 通信制課程

尾下 翔太

私が華陽フロンティア高校を卒業して、もう一年以上経ちました。しかし、高校で過ごした三年間の出来事を今でも鮮明に覚えています。

入学当初、私にとって通信制高校は未知の世界でした。様々な境遇・年代の人が在籍していることに困惑し、「とりあえず勉強だけして卒業しよう」と思っていたほどです。しかし、スクーリングや学校行事・部活動を通して徐々に学校の人と関わる事ができました。たわいもない雑談で盛り上がりたり、時には熱く語り合ったり、一緒にどこかへ出かけたり・・・私にとってはその全てが新鮮でした。と同時に、私に世界の広さを教えてくれたのです。そのことがきっかけで、学年が上がるにつれ「もっと色々な経験がしたい」と思うようになりました。

そして卒業後、さらに多くの経験をもちめて私は大学へ進学しました。そこには高校以上に広い世界が広がっており、驚きや感動の連続でした。

フロンティアに来ていなければ、今こうして充実した生活を送ることはできなかったはずで。これからも、母校で学んだことを忘れずに新たな「経験」を積み重ねていきたいです。

## 笑顔を胸に

平成二十年度卒 定時制課程

柳瀬 匡史

高校生活の思い出は、新しい生活や家族への不安がある中、凍えそうな私の気持ちを、そっと温めてくれます。そんな三年間の中で私は、ほんの少しだけ、自分を認め、信じられるようになりました。とても自慢できるものではないけれど、自己否定を続けてきた私にとっては、本当に大切なことを学ぶことができたと思います。

それは、華陽フロンティア高校で出会えた優しく実直な方々と、小さな勇気のおかげで学んだことです。思い切った話しかけた先には友達が、震えた手でノックした職員室のドアの先には先生が、力の限り声を出したグラウンドの先に野球部の先輩や後輩がいてくれたことで、私は心が折れながらも、高校三年間を全うできました。

二年生の初夏の試合、ベンチでは泣きそうになりながら、最終回代打で、人生初めてのヒットを打つたことも、皆がいたからです。ありがとうございます。

最後に、卒業式にも出席できず、一人のために式典を開いてくださった先生方の笑顔と寛大な精神を、一生忘れません。いつの日か、私自身が誰かを笑顔にすることができるよう、学び続けます。

## 感謝の気持ち

平成二十年度卒 通信制課程

長谷部 あやな

卒業して二ヵ月。華陽フロンティア高校にはとても大切な事を学んだと、たった二ヵ月ですが、気がつきました。今こうして大学生活を送っていると、私は高校生活でとてもとても大きな大切な物をもたらったと気づかれました。それは・・・勉強に対する「姿勢」「志」。

そして「感謝の気持ち」でした。華陽フロンティアに来ていた生徒一人一人のスクーリングや行事、すべての事に對する「姿勢」「志」は「本気」そのものでした。そんな中で生活した、三年間は今の私の大学生活にとっても活かされていると思います。そして、何よりすべての事に感謝できるようにになりました。毎日ちゃんと大学に通えている事に感謝。高い学費を払ってくれ、そして朝早く起きてお弁当まで作ってくれる両親に感謝。そして高校の時に出来た、遠くからだけど、ちゃんと私を見守ってくれて、支えてくれている友達に。すべての事に、感謝をできるようになれました。感謝の気持ちを伝える事のできた「広い視野」のおかげです。

華陽フロンティアに、そして、すべての人にこの感謝の気持ちを伝えたいです。

# 平成20年度 部活動成績報告

## (定時制)

### 一 岐阜県高等学校校定時制通信制

総合体育大会	女子バレーボール部	軟式野球部	剣道部	男子団体	卓球部	女子団体	女子個人
優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
1 G	今井	光里	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
1 G	今井	光里	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
1 G	今井	光里	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝

卓球部	女子団体	女子個人
1 E	高木 美希	3 回戦進出
2 A	坂井 志帆	出場

サッカー部	ソフトテニス部
1 G	今井 光里
2 回戦進出	出場

男子団体	女子団体	男子ダブルス
2 回戦進出	出場	出場

女子ダブルス	1 D	2 D	3 G	3 G	3 D	3 G	3 D
佐々木 恵里	小倉 未耶	下崎 銀次郎	宮田 拓也	長尾 優樹	中本 大喜	2 回戦進出	2 回戦進出

### 二 全国高等学校校定時制通信制

総合体育大会	女子バレーボール部	陸上競技部	男子1500m	女子100m	走幅跳	4×100mリレー
出場	出場	出場	出場	1 A	田原 貴洋	1 C
1 C	後藤 真梨	3 回戦進出	予選リーグ2位	3 A	久野 真由	3 回戦進出
2 B	山本 舞子	2 回戦進出	2 回戦進出	3 E	山口 裕也	2 回戦進出

### 三 岐阜県高等学校校定時制通信制

秋季総合体育大会	女子バレーボール部	軟式野球部	卓球部	女子団体	男子バスケットボール部	サッカー部
出場	出場	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
1 C	澤頭 恵	1 D	鈴木 哲也	1 C	鈴木 哲也	1 C
1 C	栗本 真衣	1 D	鈴木 巖	1 C	鈴木 巖	1 C

五、岐阜県高等学校演劇大会(演劇部)	地区大会	岐阜大会	岐阜県知事賞
8 位	1 C	1 C	鈴木 哲也
8 位	1 D	1 D	鈴木 巖
8 位	1 B	今西 建三	ベスト16

六 岐阜県高等学校総合文化祭	岐阜南地区合同公演	最優秀賞
3 位	澤頭 恵	3 位

七 中部日本高等学校演劇大会	演劇部	奨励賞
3 E	丸山 杏子	奨励賞

八 第七回岐阜女子大学全国書道展	奨励賞
3 E	丸山 杏子

一 岐阜県高等学校校定時制通信制	総合体育大会	卓球部	軟式野球部	女子個人戦
準優勝	準優勝	準優勝	準優勝	準優勝
1 C	鈴木 哲也	1 C	鈴木 哲也	1 C
1 D	鈴木 巖	1 D	鈴木 巖	1 D

二 全国高等学校校定時制通信制	体育大会	剣道部	女子個人戦	女子団体戦	女子バスケットボール部	剣道部
優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
3 C	澤頭 恵	3 C	澤頭 恵	3 C	澤頭 恵	3 C
1 C	栗本 真衣	1 C	栗本 真衣	1 C	栗本 真衣	1 C

三 東海高等学校校定時制通信制	体育大会	軟式野球部
3 位	澤頭 恵	3 位

四 岐阜県高等学校校定時制通信制	秋期体育大会	剣道部	女子個人戦	女子団体	バスケットボール部
優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
1 C	栗本 真衣	1 C	栗本 真衣	1 C	栗本 真衣
3 C	澤頭 恵	3 C	澤頭 恵	3 C	澤頭 恵

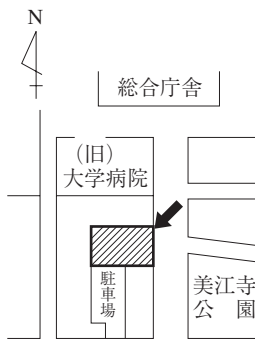
五 岐阜地区高等学校美術展	美術部	2 D	野村 昌弘
2 A	福井 誠	2 A	福井 誠

# 同窓会総会のご案内

今年度も左記の日程で同窓会総会を開催します。恩師、学友或いは先輩、後輩の方々と大いに語り合いたいと思います。今年度の当番幹事は昭和六十二年、六十三年、平成十九年、平成二十年卒業の定時制、通信制の方々を中心に準備が進んでいます。万障お練り合せの上、お誘い合せてご出席下さいます様、ご案内申し上げます。同封の葉書を七月二十四日までにご投函下さい。

平成二十一年七月  
華陽フロンティア高等学校同窓会  
会長 樽 谷 毅

- 一、日時 平成二十一年八月二日(日) 午前十一時(受付十時半より)
- 一、会場 岐阜会館 (岐阜市司町三九一)
- 一、電話 (〇五八)二六四―二五二
- 一、会費 男性 七、〇〇〇円 女性 六、〇〇〇円 (当日持参)



## 平成20年度華陽フロンティア高等学校同窓会決算書 平成21年度華陽フロンティア高等学校同窓会予算書(案)

### 収入の部

(単位:円)

科目 項目	予 算 額			決算額	差 引	備 考
	当初予算額	補正額	最終予算額			
会 費	890,000	0	890,000	913,000	23,000	総会出席者 7,000円×13人 終身会費 3,000円×274人 (定)142人(通)132人
入会金	500,000	0	500,000	548,000	48,000	2,000円×274人
基金戻入金	0	0	0	0	0	
雑 入	1,458	0	1,458	1,412	△46	利息
繰越金	1,171,542	0	1,171,542	1,171,542	0	
合 計	2,563,000	0	2,563,000	2,633,954	70,954	

### 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
会 費	1,525,000	890,000	635,000	総会会費 7,000円×100人 終身会費 3,000円×275人
入 会 金	550,000	500,000	50,000	2,000円×275人
雑 入	1,907	1,458	449	利息
繰 越 金	2,110,093	1,171,542	938,551	
合 計	4,187,000	2,563,000	1,624,000	

### 支出の部

(単位:円)

科目 項目	予 算 額			決算額	残 額	備 考
	当初予算額	補正額	最終予算額			
総会費	350,000	0	350,000	121,276	228,724	総会及び懇親会経費
役員会費	100,000	0	100,000	18,424	81,576	役員会弁当・お茶代
旅 費	160,000	0	160,000	93,361	66,639	関西、東京同窓会出席旅費
印刷消耗品費	250,000	0	250,000	0	250,000	
通信運搬費	50,000	0	50,000	5,400	44,600	役員会開催通知案内ほか
入会歓迎会費	255,000	0	255,000	164,400	90,600	卒業記念品(600円×274冊)
部活動協力費	20,000	0	20,000	0	20,000	
褒賞費	50,000	0	50,000	21,000	29,000	会長賞記念品4,200円×5人
厚生費	200,000	0	200,000	100,000	100,000	関西華陽会等総会祝儀
予備費	1,128,000	0	1,128,000	0	1,128,000	
合 計	2,563,000	0	2,563,000	523,861	2,039,139	

(予算執行に当って各項目の流用を認める。)

(収入) (支出) 翌年度へ繰り越し

$$2,633,954円 - 523,861円 = 2,110,093円$$

### 支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
総 会 費	750,000	350,000	400,000	総会経費
役員会費	100,000	100,000	0	役員会経費
旅 費	160,000	160,000	0	関西、関東同窓会出席旅費
印刷消耗品費	850,000	250,000	600,000	同窓会新聞印刷等
通信運搬費	900,000	50,000	850,000	会報等郵送代
入会歓迎会費	275,000	255,000	20,000	卒業記念品代(275人分)
部活動協力費	20,000	20,000	0	
褒 賞 費	50,000	50,000	0	会長賞 5,000円×10人
厚 生 費	200,000	200,000	0	祝儀
予 備 費	882,000	1,128,000	△246,000	
合 計	4,187,000	2,563,000	1,624,000	

(ただし、予算執行に当たっては、各項目の流用を認める。)

### ○特別会計 平成20年度華陽フロンティア高等学校同窓会基金

19年度末残高	収入(利息)	支 出	20年度末残高
7,358,158円	20,655円	0円	7,378,813円

(単位:円)

項 目	種 別	預入日	満期日	口座番号	本年度末残高金額
前年度末積立	定期預金	21.3.29	22.3.29	No1229724	1,341,013
70周年感謝記念事業積立金	定期預金	20.11.1	21.11.1	No1246167	6,036,606
70周年感謝記念事業残金	普通預金			No1240463	1,194
合 計					7,378,813

### ○特別会計 平成21年度華陽フロンティア高等学校同窓会基金

20年度末残高	収入(利息)	支出(一般会計)	21年度末残高見込
7,378,813円	15,000円	0円	7,393,813円

(単位:円)

前 年 度 末 積 立	定期預金	No1229724	1,341,013
70周年感謝記念事業積立金	定期預金	No1246167	6,036,606
70周年感謝記念事業残金	普通預金	No1240463	1,194
小計(前年度末残高)			7,378,813
収入(利 息)			15,000
支 出			0
合計(本年度末残高)			7,393,813